



Established in 1992

JCPF 会報

Japanese Cleft Palate Foundation
特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会

発行 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会事務局

〒464-8651 名古屋市千種区末盛通2-11

愛知学院大学歯学部内

TEL: 052(757)4312 FAX: 052(757)4465

振込口座: 郵便局 00850-1-109941

三菱UFJ銀行寛王山支店 普通 1045666

http://jcpf.or.jp E-mail: jcpf@jcpf.or.jp

Vol. 32, No. 4

(令和6年3月20日発行)

112

深い肌悩みを持つ患者に対する化粧によるアプローチ ～全国とつながるオンラインを活用した取り組み～

資生堂ジャパン株式会社

美容戦略部

ライフクオリティー ビューティーセンター

メイクアップコンサルタント 青木 和香恵

資生堂は創業以来、化粧品に関する知識と研究成果を活用して、お一人おひとりの美の実現をお手伝いし、心まで豊かになっていただくことを目指してきました。1980年代半ばより、化粧が肌だけではなく、心身にもよい影響を与える化粧の持つ力について本格的に研究をはじめ、大学の研究者や医師などにも協力をいただき、「化粧と心」のかかわりを多角的に研究し、その内容を事業活動と社会活動の双方で活かし取り組んできました。



※1 ●資生堂 ライフクオリティーメイクアップ
<https://corp.shiseido.com/slqm/jp/>

深い肌悩みを持つ患者に対する活動を、資生堂では「ライフクオリティー メイクアップ※1」と称しており、活動の始まりは1956年。戦禍で熱傷後の肥厚性瘢痕（ケロイド）で悩む患者に少しでも寄り添いたいと考え、日本で初めて専用化粧品「スポッツカバー※2」を開発し発売、1995年以降、青あざや赤あざの色に対して、その色を含まない光、つまり補色の関係にある光を透過する素材を用いてあざの色を目立たなくさせる技術や、光の透過性と散乱性をコントロールして手術瘢痕などの皮膚の凹凸を目立たなくさせる技術を開発し、さまざまな肌の悩みを自然にカバーできる専用化粧品「パーフェクトカバーファンデーション※3」を開発しまし



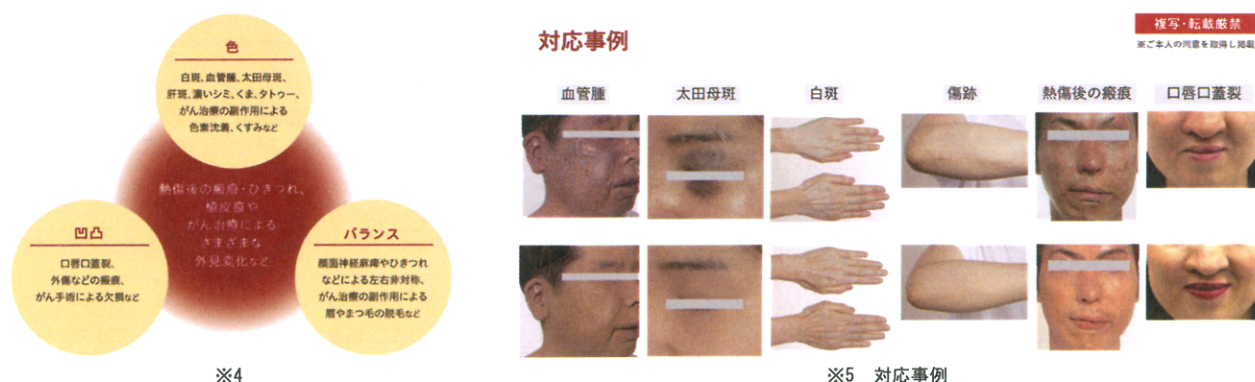
※2 資生堂スポッツカバー



※3 パーフェクトカバーシリーズ

た。パーフェクトカバーシリーズは、「化粧もち」「マスク・衣服などへのつきにくさ」はもちろん、患者にとっての「使いやすさ」の機能も追求しています。このように時代の変遷を経ながらも、メイクでカバーするテクニックを医療機関と共に研究し、「肌の色補正」、「凹凸補正」、「バランス補正」といった美容技術によって、幅広いお悩み※4に適用できるようになりました。

2006年開設した専門施設「資生堂ライフクオリティービューティーセンター」(東京・汐留)では、血管腫、太田母斑、白斑、傷跡、熱傷後の瘢痕※5のほか、皮膚疾患以外では、口唇口蓋裂の手術痕や顔面神経麻痺(左右差)の後遺症などでお悩みの方々に向け、それぞれ適した化粧品の選択や効果的な使用方法、またカバーだけではなく、他者からの視線を逸らし、魅力的に見せるトータルメイクの提案まで行っています。現在の営業日は、祝日・年末年始・夏期休暇を除く、毎週(火・水・木)の3日間、年間約300人がご来所され、その中の3割は、医療機関からの紹介になります。利用者は、赤ちゃんから80代まで年代も幅広く、男女



※4

※5 対応事例

問わず全国からご来所いただいています。これまで延べ1万人以上の多くの方に利用いただいている施設であり、当該活動は、日本の他、中国、シンガポール、台湾の4つの国・地域でも展開しています。

適用できる肌悩みは、①血管腫、太田母斑などの肌の色悩み、②口唇口蓋裂、外傷などによる手術痕などの凹凸、③顔面神経麻痺(左右差)などのバランス補正に分類されます。特に口唇口蓋裂については、初めてカバー体験にご来所される20代前半の男性が増えつつあります。男性の場合、シェービングなどで肌に負担がかかっている場合もあるため、日ごろのスキンケアの方法が重要です。化粧水・乳液の役割や日焼け止めの選び方、土台となるベースづくりについてアドバイスをしています。また、パーフェクトカバーファンデーションは、なめらかにのび、色と凹凸を同時にカバーすることが可能なため、「意外と簡単だった。」「これならできそう。」など好評を得ています。

また、当施設においては、2022年より新たな取り組みとして、遠方にお住まいの方でもカウンセリングが利用できるよう「個別オンラインカウンセリング」について検証を開始しました。実施手順は、医療機関の診察室、または患者団体からの紹介の場合は、個人の自宅より、ご自身のパソコンと東京汐留の当施設をつなぎ、画面越しにて患者に①カウンセリング(肌状態や外見の悩み、要望の確認)→②メイク提案→③化粧品選択→④使用方法などアドバイス(実演)→⑤患者自身によるメイク練習→⑥仕上がりの満足度の確認、という流れで行います。傷痕のカバーが必要な場合は、パーフェクトカバーファンデーションのサンプルを活用しますが、基本的には、普段本人が使用しているお手持ちの化粧品を組み合わせ、その方に合った最適な化粧方法を提案しています。メイクアドバイスでは、ご自身ができるように手指の動きや指の力加減、量の調節などをお伝えし、ポイントを絞ってアドバイスをしています。一度のカウンセリングですべてできるようになるのは困難ですが、回数を重ねるごとに指の動作がスムーズに動くようになっていきます。また、メイク練習するうちに、自身の励みにつながり、初回よりも表情が明るくなり、言葉数が増え、化粧行為に積極性が見られるようになりました。その他、患者会、医師と連携しオンラインでの講演協力、現地では資生堂の社会活動専門チームであるソーシャルチーム※6による化粧体験

※6 ソーシャルチームとは、資生堂ジャパンにおいて、各エリアならではの社会活動を「化粧のちから」を通じて行う専門職のチーム。ソーシャルエリアリーダーとソーシャルエリアパートナーで構成

<https://corp.shiseido.com/seminar/jp/power/index.html>

の場をつくるなど現地とオンラインのハイブリッド開催、患者も自宅から参加できるようにすることで、当事者、医師、家族との交流機会を全国でつくり、解決につながるヒントとなる情報を提供するなど、ライフステージにおいて必要となる患者支援による取り組みを全国に広げています。

昨年は、医療機関と連携し、がん患者を対象としたオンライン形式での外見ケアアドバイスの有用性^{※7}について検証した結果、外見変化に関するオンライン形式での相談は、「相談のしにくさ」へのハードルを下げることにつながり、外見ケアアドバイスは、ネガティブな感情を軽減させ、前向きな気持ちにするといった心理的な効果が期待できることが分かりました。

※7 第8回日本がんサポーターシップケア学会学術集会発表「乳がん患者に対するオンライン外見ケアアドバイスのQOLへの影響に関する検討」
<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003646>

がん患者に限らず、適用できる患者の検証に向け、現在は顔面神経麻痺などのバランス補正へのオンラインメイクアドバイスにも取り組んでいます。特に顔面神経麻痺の患者の場合、以前は普通に化粧を楽しんでいたのが、発症後、「鏡を見るのが嫌になりメイクをやめてしまった」という方が多く、同じ患者に月1回、合計3回メイクアドバイスを実施したところ、アンケートでは「とても自信になった」「自宅でも楽しく化粧に取り組めそう」「変化が自分でも分かり気持ちまで前向きになった」といった嬉しい声をいただいています。現在、各大学病院と連携し、外来に来院された患者と医師立ち合いのもと、オンラインで当施設メイクアップコンサルタントとつなぎ、患者への個別フォローを行っています。このように、患者のQOL向上に欠かせないものとして、メイク指導を取り入れる医療機関が増えつつあります。また、治療にはない利点として、痛みやリスクが少なく短時間でできること、自身でケアができる点など、治療の補助的な役割として適切に組み合わせることで患者の自己肯定感が高まり治療に対する意欲につながります。

2024年度、遠方、身体的ストレスや障がいをお持ちの方など様々な理由から外出が困難な方にもご利用いただけるように、オンライン個別メイクレッスン^{※8}を本格的に開始しました。自宅にいながら少しの手間でご自身がメイクできる方法をお伝えしています。また、患者の一つの選択肢としてお役立ていただけるよう医療従事者様に向けたパーフェクトカバー説明会をオンライン形式で実施しています。化粧のちからで誰もが自分らしく生きられる社会の実現を目指して、これからも活動を続けてまいります。



※8 オンライン個別メイクレッスン



オンライン個別メイクレッスン申し込み
二次元バーコード

医療機関窓口：wakae.aoki@shiseido.com